



家庭からできる「ゴミのリサイクル」

エプロン通信員 島袋 ミチ子

毎日の生活から出て行くゴミはいったいどこへ行ってしまっているのでしょうか。私たちの身の回りでもちよつと気を配ることとでゴミを減らすことができます。

リサイクルで作り返してもういちど使う。たとえば、洋服などでいえば「長袖のTシャツの袖と襟ぐりをカットして、レースカテープなどを縫い付ける」「半ズボン、Gパンは股下を切り抜き、前中心と後ろ中心を縫い、スソも縫ったらウエストに持ち手のヒモをつけるとバックになる」「ワンピースは、ウエストを外し下部をスカートにする」「まだ着られる長ズボンとロングスカートを短くして、半ズボンとミニスカートにする」「Tシャツは小さいサイズと大きいサイズの雑巾にする」こうして作り変えると、まだまだたくさん使えるものがあると思いませんか。

我如古婦人会の皆さんがリサイクルを行いました。使い終えたサラダ油を家庭から持ってきて、せっけんに作り変えました。油で作ったせっけん白シャツの

襟と靴下の汚れも洗えます。いろいろ洗えるよ、と皆さん笑顔で言いました。

それからマイバック作り。傘の布部分を、使ってカットして縫い合わせます。大きいバック、小さいバック、フリルのついたバック、色違いのバック、リボンの絵がついたバック、縞柄のバック、自分の名前が入った傘もバックに作り変えました。傘の布からバックが出来るなんてびっくりですね。サラダ油をせっけん、傘の布をマイバックにするなどいろいろなものに作り変えて使っていけると思っています。

家庭から出るゴミを、リサイクルして少しでも無くしていきたいものですね。



茶

ぐわーゆんたく

78

キャンプ・マーシー

「キャンブ・マーシー」という米軍基地が真志喜にあった事をご存じですか？



▲西海岸から見たキャンブ・マーシー 1960(昭和35)年頃

国道58号線より西側の真志喜地域は1945(昭和20)年に米軍基地用地として強制収用され、陸軍医療事務部隊が駐屯し、陸軍病院や獣医センター、米人小学校などの施設が置かれました。それから約30年後の1976(昭和51)年に41万平方メートルという広大な土地が、15年かけて全て返還されました。返還跡地には宜野湾警察署が普天間から移転し、宜野湾高校・真志喜中学校などの公共施設が建ちました。その後、市当局と地元地主会との調整により区画整理事業が実施され、今では新興住宅地を形成しています。沖縄コンベンションセンター向かい側の「真志喜ポケットパーク」には、真志喜地区土地区画整理事業の竣工記念碑が建てられており、その碑にはキャンブ・マーシーの跡地であることが明記されています。



▲竣工記念碑 1993(平成5)年3月建立 (真志喜ポケットパーク)



▲真志喜土地区画整理事業促進地主会による完成記念碑 1998(平成10)年1月建立 (いすのき児童公園)

1980年代に入ると海岸埋め立て事業が開始され、市立体育館・市立野球場・宜野湾マリナー・沖縄コンベンションセンターなどの大型施設の設立により、真志喜を含む西海岸地区はめまぐるしい発展を遂げました。基地返還に伴うその土地の発展を見ると、現存する基地返還後の跡地利用についても、多種多様な可能性があります。将来への夢が大きく広がります。

「宜野湾市史」へのお問い合わせ
教育委員会 文化課 ☎8933-4430